** 2021年6月（第5版）
＊ 2010年4月8日（第4版）

届出番号 07B2X00007000005

＊ 機械器具26 医療用遠心ちんでん器
一般医療機器 汎用検査室用遠心機 JMDN 36465000

卓上多本架遠心機 LC-230

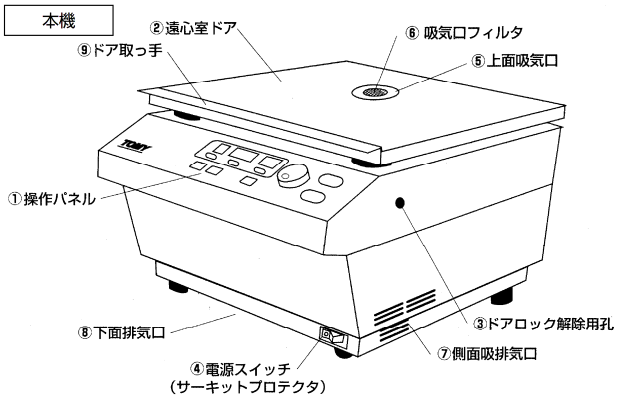
【禁忌・禁止】

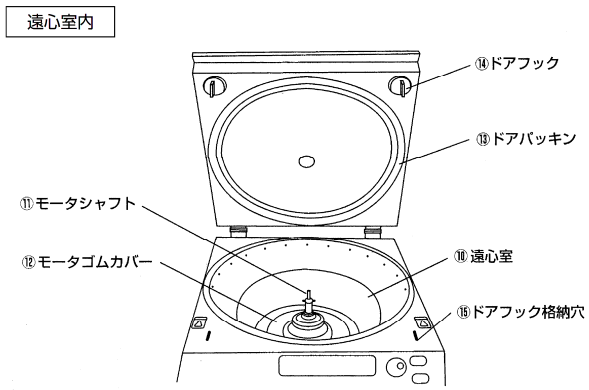
- 吸排気口をふさがないこと。[温度上昇による発火の原因になります]
- 爆発性の試料を遠心しないこと。[本機は防爆仕様ではありません。本機の破損により死亡事故や重傷事故の原因となり危険です]
- 感染性のある試料を遠心しないこと。[本機はバイオハザード対策仕様ではありません。感染性の試料を使用した場合、人体に重大な影響をおよぼす原因となり危険です]
- ロータの回転中は遠心室ドアを開けないこと。[誤って回転中のロータに触れると重傷事故の原因になり危険です]

【形状・構造及び原理等】

≪本体外観図≫

詳細は、取扱説明書の「2-2.各部の名称と働き」を参照してください。





≪本体の寸法及び質量≫

- 外形寸法：484W×582D×365H (mm)
- 質量：45 kg

≪電気的定格≫

- 定格電圧：AC 100V
- 電源入力：10A
- 必要な電源：単相 AC 100V (50/60Hz) 15A

≪作動・動作原理≫

運転を始めるとモータが動き、ロータを回転・加速します。なお、運転開始と同時にタイマーが作動します。ロータの回転が設定回転数まで到達すると、タイマー終了まで回転数を維持します。このとき発生する遠心力で試料が分離されます。
設定された遠心時間が経過すると、モータを減速します。ロータの回転が停止すると全工程が完了となり、ブザーと表示灯で報知します。
なお、ロータ回転中は遠心室内に生じる圧力差を利用して外気を導入することで遠心室を冷却しています。
装置に異常が発生すると、より安全な状態に移る動作をするとともに、エラーコードの表示とブザーで報知します。

** **≪仕様≫**

1) 最高回転数 9000rpm
2) 最大遠心加速度 9600G
3) 時間設定範囲　1分～99分、フリー（1分毎）

** **【使用目的又は効果】**

遠心力を応用して懸濁液の成分を分離するために用いる。
体液等の試料を単独か、又は分析物の測定前に試薬や他の添加物を添加した後に遠心分離することを目的とする。

** **【使用方法等】**

≪設置方法≫

詳細は取扱説明書の「3.設置について」を参照してください。

直射日光の当たらない風通しの良い場所を選び、十分なスペースを空けて設置する。

≪使用環境≫

本機を使用する際には、下記の環境をお守りください。
周囲温度：6～35℃
相対湿度：30～85%
気圧：700～1060 hPa
傾斜：2度以内

≪使用方法≫

詳細は取扱説明書の「4.操作の流れについて」及び「5.操作方法について」を参照してください。
① 電源スイッチ「入」
② ロータの取り付け
③ ロータの識別
④ 遠心試料の準備

取扱説明書を必ずご参照下さい。

#19002.05

⑤ 遠心試料の取り付け
⑥ BART コードの設定
⑦ 運転条件の設定
⑧ 運転開始
⑨ 運転終了
⑩ 遠心試料の取り出し
⑪ ロータの取り外し
⑫ 電源スイッチ「切」

【使用上の注意】

詳細は取扱説明書の「1.安全にお使いいただくために」を参照してください。

1. 使用前注意
- 傷、変形、腐食があるロータ・バケット・ラック・アダプタを使用しないこと。
- ロータをつけたまま本機を移動しないこと。

2. 遠心室ドアの開閉
- ドアフック格納穴の近くに手を置かないこと。

3. ロータの取り付け
- モータシャフトに傷、およびゴミがないか確認すること。
- ロータ本体、および遠心室内に異物がないことを確認すること。
- ロータ固定ナットを確実に締め付けること。

4. 遠心試料の準備
- 傷、変形、腐食がある遠心チューブを使用しないこと。
- 遠心チューブの許容遠心加速度を確認すること。
- 試料の量は使用チューブの実容量以下で使用すること。
- 試料の密度が 1.2 g/cm^{3}をこえる場合は、密度によるロータ許容回転数を算出すること

5. 遠心試料の取り付け
- スイングロータのバケット、ラックは同種類のものをロータ本体すべての位置に取り付けること。
- バケット、ラックは確実に装着すること。
- チューブ装着穴、バケット内に水滴や異物がないか確認すること。
- チューブ、試料の取り付けはバランスをとること。
- スイングロータのバケットは、試料取り付け後にスムーズにスイングすることを確認すること。

6. BART コードの設定
- BART コードは、よく確認して、正しく設定すること。

7. 運転条件の設定
- 遠心チューブの許容遠心加速度をこえる回転数を設定しないこと。
- 試料の密度が 1.2 g/cm^{3}をこえる場合は、算出したロータ許容回転数をこえる設定をしないこと。

**【保管方法及び有効期間等】

耐用期間 7 年［自己認証(当社データ)による］

【保守・点検に係る事項】

≪使用者による保守点検事項≫

詳細は取扱説明書の「7.保守点検について」を参照してください。

1. 本体の清掃と消毒
本体外装や遠心室内が汚れたら、清掃、消毒を行なう。
2. ロータの清掃と消毒
ロータ、バケット、ラックが汚れたら、清掃、消毒を行なう。
3. 一ヶ月ごとに行なう保守点検
一ヶ月を目安として、本機各部、ロータの清掃と点検を行なう。
4. 遠心機械の定期自主検査
一年以内ごとに一回、労働安全衛生規則に定められた自主検査を行なう。

**【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売元：トミー工業株式会社
住　所　：福島県石川郡浅川町大字簑輪字山敷田 62
電話番号：0247－36－3160

製　造　元：トミー工業株式会社
住　所　：東京都練馬区田柄 3－14－17
電話番号：03－5987－3350

販売業者の連絡先